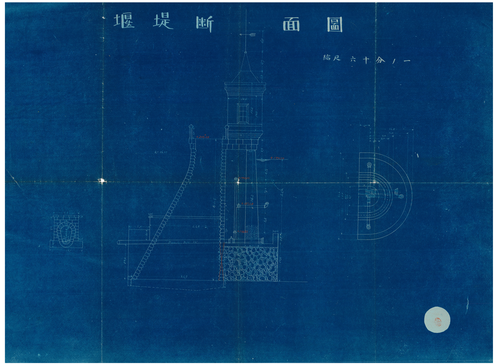
山口市上下水道局
上水道給水開始百周年

旧桂ヶ谷貯水池堰堤は、山口市小郡地域にある国登録有形文化財です。

四十八瀬川の支流である桂ヶ谷川と羽根越川を水源とする小型ダムで、県下で二番目の本格的な上水道施設として百年前の大正十二年（一九二三）年に完成しました。

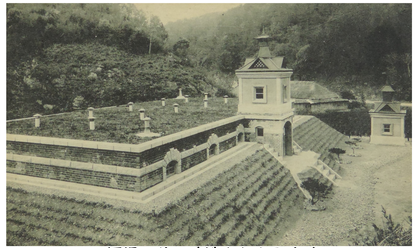
粗石コンクリート工法で施工された、県内最古のコンクリート重力式ダムで、堤高一三・四m、提幅三・〇m、堤長二三・六m、総貯水量三七二〇〇㎥を誇ります。

この堰堤と同時に、濾過池と配水池も整備され、小郡地域へ給水が開始されました。



桂ヶ谷堰堤断面図【当時の青焼き図面】
（山口市上下水道局所蔵）

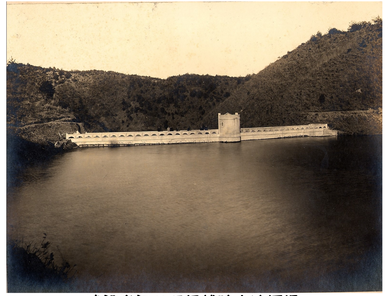
現在の堰堤の様子
（山口市小郡文化資料館提供）

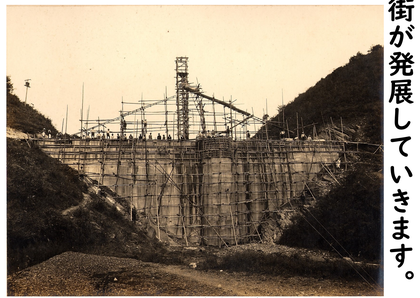

堰堤と共に建造された配水池
（山口市上下水道局所蔵）

建設当初の桂ヶ谷貯水池堰堤
（山口市上下水道局所蔵）

これら上水道施設の整備により、小郡地域に清浄な水が給水されるようになり、水に起因する伝染病等の心配が少なくなりました。健康に暮らせる環境が作られたことで、より街が発展していきます。

また、上水道の整備により、蒸気機関車の基地である「機関庫」が小郡に設置されます。熱と水によって発生する蒸気を動力に利用する蒸気機関車にとって、安定した上水道のある小郡地域は、機関庫の移設先として最適だったのです。


建設当初の羽根越貯水池堰堤
（山口市上下水道局所蔵）


羽根越堰堤建造の様子
（山口市上下水道局所蔵）

小郡機関庫で水を満タンにした蒸気機関車が、山陽本線と山口線を走り抜け、沿線の街の発展を支えました。街の発展に伴い、さらに蒸気機関車が増便され、より多くの水が必要となります。

桂ヶ谷貯水池堰堤の完成から、わずか5年後には、羽根越貯水池堰堤が建設され、更なる水需要に対応していきました。

山口市の上水道は、百年前の旧桂ヶ谷貯水池堰堤の完成から歴史が始まりました。それは同時に、山口線全線開通の歴史でもあります。蒸気をモウモウとあげ、汽笛をとどろかせて走る蒸気機関車の歴史に触れる時、その走りを支えた上水道に思いを馳せていただけますと幸いです。